

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度 決算額(千円)	令和7年度 予算額(千円)	実績・成果
—	—	—	—	—	—	—	—

効果

個別施策(アウトプット)

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	全国平均(R3)
退院支援担当者を配置している病院数 ※65歳以上10万人あたり	R4 16.0か所 [53か所]	R4 16.0か所 [53か所]	R5 16.6か所 [55か所]	R6 15.4か所 [51か所]	↓ 後退	11.5か所



中間アウトカム

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	全国平均(R3)
退院支援(退院調整)を受けた患者数	R3 56,538人	R3 56,538人	R4 58,953人	R5 71,099人	↑ 改善	—
介護支援連携指導を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 845人	R3 845人	R4 919人	R5 1,217人	↑ 改善	870人
退院時共同指導を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 252人	R3 252人	R4 275人	R5 329人	↑ 改善	155人
退院支援計画書を作成した患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 1,945人	R3 1,945人	R4 2,499人	R5 3,074人	↑ 改善	—

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は適切か 分野・中間アウトカムと施策のつながりは強い	・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルに整合性はある。 ・中間アウトカムの退院時共同指導を受けた患者数、退院支援計画書を作成した患者数は、第8次計画から追加された指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算(決算)書		A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング		
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標		
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング		
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・中間アウトカムは、全てにおいて増加している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・退院支援担当者を配置している1施設あたりの実績が向上。	
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング	・退院支援担当者の配置は、病院機能によるところが大きい。	
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見		A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度 決算額(千円)	令和7年度 予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
入退院支援連携デザイン事業	退院支援担当者を配置し、 退院支援ができる体制を整備	毎年度	県 (県医療ソーシャルワーカー協会)	地域包括ケア 推進課	4,954	5,000	・多職種向けオンライン研修(病院・施設での身寄りのない人の支援体制づくり): 1回281人参加 (参考) ・啓発用漫画の作成・配布: 1,510部 ・啓発用動画のDVD配布: 240件
各種研修の実施		毎年度	市町村	—	—	—	関連研修: 1回
各種研修の実施		毎年度	関係団体(医師会・看護協会等)	—	—	—	関連研修: 7回

効果

個別施策(アウトプット)

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果
退院支援担当者に対する研修会の開催回数	R4 11回	R4 11回	R5 20回	R6 8回	↓ 後退



中間アウトカム

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	全国平均(R3)
退院支援(退院調整)を受けた患者数	R3 56,538人	R3 56,538人	R4 58,953人	R5 71,099人	↑ 改善	—
介護支援連携指導を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 845人	R3 845人	R4 919人	R5 1,217人	↑ 改善	870人
退院時共同指導を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 252人	R3 252人	R4 275人	R5 329人	↑ 改善	155人
退院支援計画書を作成した患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 1,945人	R3 1,945人	R4 2,499人	R5 3,074人	↑ 改善	—

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果（事務局案）	判定
整合性（セオリー）評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は適切か 分野・中間アウトカムと施策のつながりは強いのか	・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルのつながりに整合性がある。 ・第7次計画から継続している指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
実行（プロセス）評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算（決算）書	・取組記載の決算額のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・多職種研修はハイブリット形式により281名が参加。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・全体の研修回数は、8回と減少した。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・多くの関係者への普及が必要	
効果（インパクト）評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・中間アウトカムは全てにおいて増加している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・研修回数は減っているが中間アウトカムは増加している。	
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング	・各年で設定する研修テーマにより回数の増減がある。	
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見		A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度 決算額（千円）	令和7今年度 予算額（千円）	実績・成果
入退院支援連携デザイン事業	在宅医療・介護連携に必要な多職種が対象となる研修を実施	毎年度	県 (県医療ソーシャルワーカー協会)	地域包括ケア 推進課	4,954	5,000	・多職種向けオンライン研修（病院・施設での身寄りのない人の支援体制づくり）：1回281人参加
在宅・介護施設等療養者への継続的な在宅歯科診療の提供のための他職種連携事業		毎年度	県 (県歯科医師会)	地域包括ケア 推進課	2,400	2,400	・多職種向けハイブリッド研修（訪問歯科診療推進フォーラム）：1回95名参加
各種研修の実施		毎年度	市町村	—	—	—	関連研修：5回
各種研修の実施		毎年度	関係団体（医師会・看護協会等）	—	—	—	関連研修：39回

効果

個別施策（アウトプット）

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果
医療・介護の多職種による研修会の開催回数	R4 23回	R4 23回	R5 51回	R6 42回	↓ 後退
介護支援専門員への在宅医療研修・働きかけ	R4 9回	R4 9回	R5 1回	R6 2回	↑ 改善

中間アウトカム

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	全国平均 (R3)
訪問診療を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 15,037人	R3 15,037人	R4 17,552人	R5 20,594人	↑ 改善	29,151人
訪問看護利用者数(医療保険) ※65歳以上10万人あたり	R3 217人	R3 217人	R4 163人	R5 137人	↓ 後退	534人
訪問看護利用者数(介護保険) ※65歳以上10万人あたり	R3 15,105人	R3 15,105人	R4 17,594人	R5 21,143人	↑ 改善	31,532人
歯科衛生士を帯同した訪問歯科診療を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 7,680人	R3 7,680人	R4 7,943人	R5 9,806人	↑ 改善	12,073人
訪問口腔衛生指導を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 4,671人	R3 4,671人	R4 4,606人	R5 5,594人	↑ 改善	7,277人
居宅療養管理指導を受けた患者数(介護保険) ※65歳以上10万人あたり	R3 9,544人	R3 9,544人	R4 11,248人	R5 13,163人	↑ 改善	19,290人
訪問薬剤管理指導を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 944人	R3 944人	R4 823人	R5 892人	↑ 改善	836人
往診を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 3,037人 [4,352回]	R3 3,037人 [4,352回]	R4 3,796人 [5,497回]	R5 4,474人 [6,152回]	↑ 改善	5,339人
夜間・休日に往診を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 543人 [550回]	R3 543人 [550回]	R4 684人 [700回]	R5 812人 [820回]	↑ 改善	—

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果（事務局案）	判定
整合性（セオリー）評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は適切か 分野・中間アウトカムと施策のつながりは強い	・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルのつながりに整合性がある。 ・第7次計画から継続している指標である。	<input type="radio"/> A 十分に満たされている <input checked="" type="radio"/> B かなり満たされている <input type="radio"/> C ある程度満たされていない <input type="radio"/> D 大幅に満たされていない
実行（プロセス）評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算（決算）書	・取組記載の決算額のとおり	<input type="radio"/> A 予定通り実行されている <input checked="" type="radio"/> B ほぼ実行されている <input type="radio"/> C 一部実施されている <input type="radio"/> D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・多職種向け研修オンライン含めを実施した。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・他職種研修は42回、介護支援専門員への働きかけは2回実施している。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・介護支援専門員向けへの働きかけを増やすことを検討。	
効果（インパクト）評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・多くの指標で増加しているが、全国との差は大きい。	<input type="radio"/> A とても効果を出している <input checked="" type="radio"/> B 効果を出している <input type="radio"/> C あまり効果を出していない <input type="radio"/> D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・関連があり、中間アウトカムの向上に寄与している。	
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング	・高齢者人口の増加によるものも推察される。	
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見		<input type="radio"/> A 強化すべき <input type="radio"/> B 維持すべき <input type="radio"/> C 検討を続けるべき <input type="radio"/> D 中止を検討すべき <input type="radio"/> E 中止すべき

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度 決算額(千円)	令和7年度 予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
訪問看護支援事業	訪問看護師を育成する研修を実施	毎年度	県 (県看護協会)	地域包括ケア 推進課	13,524 のうち数	16,875 のうち数	・訪問看護師の育成のための各種研修：計9回177人参加
各種研修の実施		毎年度	市町村	—	—	—	・関連研修：0回

効果

個別施策(アウトプット)

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果
訪問看護師の育成のための実習・研修会開催回数	R4 17回	R4 17回	R5 10回	R6 9回	↓ 後退

中間アウトカム

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	全国平均 (R3)
訪問診療を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 15,037人	R3 15,037人	R4 17,552人	R5 20,594人	↑ 改善	29,151人
訪問看護利用者数(医療保険) ※65歳以上10万人あたり	R3 217人	R3 217人	R4 163人	R5 137人	↓ 後退	534人
訪問看護利用者数(介護保険) ※65歳以上10万人あたり	R3 15,105人	R3 15,105人	R4 17,594人	R5 21,143人	↑ 改善	31,532人
歯科衛生士を帯同した訪問歯科診療を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 7,680人	R3 7,680人	R4 7,943人	R5 9,806人	↑ 改善	12,073人
訪問口腔衛生指導を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 4,671人	R3 4,671人	R4 4,606人	R5 5,594人	↑ 改善	7,277人
居宅療養管理指導を受けた患者数(介護保険) ※65歳以上10万人あたり	R3 9,544人	R3 9,544人	R4 11,248人	R5 13,163人	↑ 改善	19,290人
訪問薬剤管理指導を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 944人	R3 944人	R4 823人	R5 892人	↑ 改善	836人
往診を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 3,037人 [4,352回]	R3 3,037人 [4,352回]	R4 3,796人 [5,497回]	R5 4,474人 [6,152回]	↑ 改善	5,339人
夜間・休日に往診を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 543人 [550回]	R3 543人 [550回]	R4 684人 [700回]	R5 812人 [820回]	↑ 改善	—

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果（事務局案）	判定
整合性（セオリー）評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は適切か 分野・中間アウトカムと施策のつながりは強い	・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルのつながりに整合性がある。 ・第7次計画から継続している指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
実行（プロセス）評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算（決算）書	・取組記載の決算額のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・訪問看護師の育成のための研修回数は減少した。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・訪問看護師の育成のための研修は、9回実施している。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・事業所の質向上のため管理者研修の充実を図っている。	
効果（インパクト）評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・訪問看護師に関する指標のうち、訪問看護利用者（介護保険）は増加している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・訪問看護師については関連があり、中間アウトカムの向上に寄与している。	
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング	・高齢者人口の増加によるものも推察される。	
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見		A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度 決算額(千円)	令和7年度 予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
訪問看護総合支援センター事業	訪問看護を提供する体制の整備	毎年度	県 (県看護協会)	地域包括ケア 推進課	13,524	16,875	・コールセンターの運営：相談293件 ・訪看育成の各種研修：計177人参加 ・HP「訪問看護ネット沖縄」による普及啓発：42,959アクセス
離島・へき地訪問看護提供体制強化・育成事業	離島・へき地の訪問看護を提供する体制の整備	毎年度	訪問看護事業者	地域包括ケア 推進課	99	800	補助金：3件99,000円
在宅歯科診療提供のための多職種連携事業	在宅歯科診療の拡大を図る取組	毎年度	県 (県歯科医師会)	地域包括ケア 推進課	2,400	2,400	・多職種向けハイブリッド研修(訪問歯科診療推進フォーラム)：1回95名参加
訪問薬剤管理指導推進事業	訪問薬剤管理指導業務を行う薬局の増加を図る取組	毎年度	県 (県薬剤師会)	薬務生活衛生課	929	1,028	・訪問薬剤管理指導を実施している薬局への見学及び同行研修：8回 ・多職種連携会議の開催：2回 ・座学研修会等：1回 ・多職種コンソーシアム実践研修会への参加：1回

効果

個別施策(アウトプット)

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	全国平均(R3)
訪問診療を実施している診療所数 ※65歳以上10万人あたり	R3 33.5か所	R3 33.5か所	R4 34.7か所	R5 38.6か所	↑ 改善	64.7か所
訪問診療を実施している病院数 ※65歳以上10万人あたり	R3 7.2か所	R3 7.2か所	R4 8.4か所	R5 7.8か所	↓ 後退	7.1か所
訪問看護事業所数 ※65歳以上10万人あたり	R4 57.9か所 [192か所]	R4 57.9か所 [192か所]	R5 67.6か所 [224か所]	R6 80.1か所 [272か所]	↑ 改善	37.6か所
訪問看護ステーションの看護職数 ※65歳以上10万人あたり	R3 248人	R3 248人	R4 297.5人	R5 378.7人	↑ 改善	210.8か所
歯科訪問診療を実施している診療所数 ※65歳以上10万人あたり	R5 90.2か所	R5 90.2か所	R6 90.5か所	R7 90.2か所	↓ 後退	112.2か所 (R5)
訪問薬剤管理指導を実施している薬局数 ※65歳以上10万人あたり	R3 23.8か所	R3 23.8か所	R4 26.6か所	R5 27.2か所	↑ 改善	35.2か所
訪問口腔衛生指導を実施している医療機関数 ※65歳以上10万人あたり	R3 8.1か所	R3 8.1か所	R4 8.1か所	R5 9.1か所	↑ 改善	20.2か所

中間アウトカム

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	全国平均(R3)
訪問診療を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 15,037人	R3 15,037人	R4 17,552人	R5 20,594人	↑ 改善	29,151人
訪問看護利用者数(医療保険) ※65歳以上10万人あたり	R3 217人	R3 217人	R4 163人	R5 137人	↓ 後退	534人
訪問看護利用者数(介護保険) ※65歳以上10万人あたり	R3 15,105人	R3 15,105人	R4 17,594人	R5 21,143人	↑ 改善	31,532人
歯科衛生士を帯同した訪問歯科診療を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 7,680人	R3 7,680人	R4 7,943人	R5 9,806人	↑ 改善	12,073人
訪問口腔衛生指導を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 4,671人	R3 4,671人	R4 4,606人	R5 5,594人	↑ 改善	7,277人
居宅療養管理指導を受けた患者数(介護保険) ※65歳以上10万人あたり	R3 9,544人	R3 9,544人	R4 11,248人	R5 13,163人	↑ 改善	19,290人
訪問薬剤管理指導を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 944人	R3 944人	R4 823人	R5 892人	↑ 改善	836人
往診を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 3,037人 [4,352回]	R3 3,037人 [4,352回]	R4 3,796人 [5,497回]	R5 4,474人 [6,152回]	↑ 改善	5,339人
夜間・休日に往診を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 543人 [550回]	R3 543人 [550回]	R4 684人 [700回]	R5 812人 [820回]	↑ 改善	—

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果（事務局案）	判定
整合性（セオリー）評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は適切か 分野・中間アウトカムと施策のつながりは強い	・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルのつながりに整合性がある。 ・指標の多くは第7次計画から継続している指標であるが、看護職数については第8次計画で追加された。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
実行（プロセス）評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算（決算）書	・取組記載の決算額のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・訪問看護、訪問歯科診療、訪問薬剤管理の推進に係る取組は実施しているが、在宅医師の増加等の取組は実施されていない。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・日常の在宅医療を提供する体制は着実に向上しているが、特に訪問診療を実施している診療所が全国に比べて少ない。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・概ね順調である。	
効果（インパクト）評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・訪問看護利用者数（医療保険）に後退がみられる。 ・訪問薬剤管理指導を受けた患者数が伸び悩んでいる。 ・また、全体的に全国と比較して少ない数に留まっている。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・関連があり、中間アウトカムの向上に寄与している。	
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング	・高齢者人口の増加によるものも推察される。	
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見		A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度 決算額(千円)	令和7年度 予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
在宅医療介護連携 支援事業	往診・夜間看取りの代診医 派遣体制の構築への支援	毎年度	県 (県医師会)	地域包括ケア 推進課	13,156 のうち数	20,000 のうち数	・往診・夜間看取りの代診医派遣実 証：参加医療機関11、派遣依頼19件 (対応時間累計22日8.5時間) ・往診・夜間看取りの代診医派遣振り 返りシンポジウム：43名参加
訪問看護総合支援 センター事業	訪問看護を提供する体制の 整備	毎年度	県 (県看護協会)	地域包括ケア 推進課	13,524 のうち数	16,875 のうち数	・コールセンターの運営：相談293件 ・管理者向け研修：3回38人参加

効果

個別施策(アウトプット)

	基準年	直近の 前々年	直近の 前年	直近	結果	全国平均 (R3)
往診を実施している診療所数・ 病院数 ※65歳以上10万人あたり	R3 51.9か所	R3 51.9か所	R4 56.4か所	R5 57.9か所	↑ 改善	97.1か所

中間アウトカム

	基準年	直近の 前々年	直近の 前年	直近	結果	全国平均 (R3)
訪問診療を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 15,037人	R3 15,037人	R4 17,552人	R5 20,594人	↑ 改善	29,151人
訪問看護利用者数(医療保 険)※65歳以上10万人あたり	R3 217人	R3 217人	R4 163人	R5 137人	↓ 後退	534人
訪問看護利用者数(介護保 険)※65歳以上10万人あたり	R3 15,105人	R3 15,105人	R4 17,594人	R5 21,143人	↑ 改善	31,532人
歯科衛生士を帯同した訪問歯 科診療を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 7,680人	R3 7,680人	R4 7,943人	R5 9,806人	↑ 改善	12,073人
訪問口腔衛生指導を受け た患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 4,671人	R3 4,671人	R4 4,606人	R5 5,594人	↑ 改善	7,277人
居宅療養管理指導を受け た患者数(介護保険) ※65歳以上10万人あたり	R3 9,544人	R3 9,544人	R4 11,248人	R5 13,163人	↑ 改善	19,290人
訪問薬剤管理指導を受け た患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 944人	R3 944人	R4 823人	R5 892人	↑ 改善	836人
往診を受けた患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 3,037人 [4,352回]	R3 3,037人 [4,352回]	R4 3,796人 [5,497回]	R5 4,474人 [6,152回]	↑ 改善	5,339人
夜間・休日に往診を受けた 患者数 ※65歳以上10万人あたり	R3 543人 [550回]	R3 543人 [550回]	R4 684人 [700回]	R5 812人 [820回]	↑ 改善	—

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果（事務局案）	判定
整合性（セオリー）評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は適切か 分野・中間アウトカムと施策のつながりは強い	・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルのつながりに整合性がある。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
実行（プロセス）評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算（決算）書	・取組記載の決算額のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・往診・夜間看取りの代診派遣実証を実施。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・往診を実施している診療所数・病院数は増加している。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・往診を実施している診療所数は、全国との差が大きい。	
効果（インパクト）評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・往診を受けた患者数は増加傾向である。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・往診に関する指標については関連があり、中間アウトカムの向上に寄与している。	
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング	・高齢者人口の増加によるものも推察される。	
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見		A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度 決算額(千円)	令和7今年度 予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
在宅医療介護連携 支援事業	往診・夜間看取りの代診医 派遣体制の構築への支援	毎年度	県 (県医師会)	地域包括ケア 推進課	13,156 のうち数	20,000 のうち数	・往診・夜間看取りの代診医派遣実 証：参加医療機関11、派遣依頼19件 (対応時間累計22日8.5時間) ・往診・夜間看取りの代診医派遣振り 返りシンポジウム：43名参加
訪問看護総合支援 センター事業	訪問看護を提供する体制の 整備	毎年度	県 (県看護協会)	地域包括ケア 推進課	13,524 のうち数	16,875 のうち数	・コールセンターの運営：相談293件 ・訪看育成の各種研修：計177人参加

効果

個別施策(アウトプット)

	基準年	直近の 前々年	直近の 前年	直近	結果	全国平均 (R3)
在宅看取り(ターミナルケア)を実施 している診療所 ※65歳以上10万人あたり	R3 16か所	R3 15.7か所	R4 16.9か所	R5 17.8か所	↑ 改善	30.3か所
在宅看取り(ターミナルケア)を実施 している病院数 ※65歳以上10万人あたり	R3 1.2か所	R3 1.2か所	R4 1.2か所	R5 2.1か所	↑ 改善	1.6か所
訪問看護事務所(機能強化型 I・II)の事業所数	R2 8か所	—	R4 10か所	R5 14か所	↑ 改善	—

中間アウトカム

	基準年	直近の 前々年	直近の 前年	直近	結果	全国平均 (R3)
看取り数(死亡診断のみの 場合を含む) ※65歳以上10万人あたり	R3 560人	R3 560人	R4 743人	R5 709人	↓ 後退	664人

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオ リー)評価	ロジックモデルの左 右のつながりに、論 理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は 適切か 分野・中間アウトカムと施策のつな がりは強い	・他府県ロジックモ デルとの比較 ・協議会・部会での 審議	・ロジックモデルのつながりに整合性がある。 ・第7次計画から継続している指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
実行(プロセ ス)評価	決めたことをきちん とやっているか	資源は用意されたか 施策は実施されたか、進捗はどうか アウトプットが生まれているか 施策関係者はどう感じているか	予算(決算)書 関係者ヒアリング アウトプット指標 関係者ヒアリング	・取組記載の決算額のとおり ・往診・夜間看取りの代診派遣実証を実施。 ・在宅看取りを実施してる診療所、病院数は、増加 している。 ・概ね順調であるが、地域差がある。	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
効果(インパ クト)評価	やったことが効いて いるのか	アウトカムは向上したか アウトプット指標値とアウトカム指 標値の関係は 外部要因の影響は	アウトカム指標 アウトカムとアウト プットの指標値 関係者ヒアリング	・看取り数(死亡診断のみの場合を含む)はR5は減 少したが基準年よりは上回っている。 ・関連があり、中間アウトカムの向上に寄与してい る。 ・高齢者人口の増加によるものも推察される。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
総合評価	この施策をやり続 けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での 主な意見		A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度 決算額(千円)	令和7年度 予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
訪問看護総合支援センター事業	訪問看護を提供する体制の整備	毎年度	県 (県看護協会)	地域包括ケア推進課	13,524	16,875	・コールセンターの運営：相談293件 ・訪看育成の各種研修：計177人参加 ・HP「訪問ネット沖縄」による普及啓発：42,959アクセス
離島・へき地訪問看護提供体制強化・育成事業	離島・へき地の訪問看護を提供する体制の整備	毎年度	訪問介護事業所	地域包括ケア推進課	99	800	補助金：3件99,000円

効果

個別施策(アウトプット)

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	全国平均(R3)
小児の訪問診療を実施している診療所・病院数	R3 3か所	R3 3か所	R4 4か所	R5 3か所	↓ 後退	—
小児の訪問看護を実施している訪問看護ステーション数 ※小児人口10万人あたり	R4 28か所	—	—	R4 28か所	—	26か所

中間アウトカム

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	全国平均(R3)
小児の訪問診療を受けた患者数 ※小児人口10万人あたり	R3 89人	R3 89人	R4 98人	R5 59人	↓ 後退	269人
小児の訪問看護利用者数 ※小児人口10万人あたり	R3 1,659人	R3 1,659人	R4 1,969人	R5 2,249人	↑ 改善	1,951人

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定	
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は適切か	・他府県ロジックモデルとの比較	・ロジックモデルのつながりに整合性がある。 ・第7次計画から継続している指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない	
		分野・中間アウトカムと施策のつながりは強い	・協議会・部会での審議			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算(決算)書	・取組記載の決算額のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない	
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング			
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標			・小児の訪問診療を実施している診療所・病院数は減少している。
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング			
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・小児の訪問診療を受けた患者数は減少している。 ・関連があり、訪問診療はともに減少している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない	
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値			
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング			
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見		A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき	